

目 次

はしがき

第Ⅰ部 長州藩に生まれる

第1章 おいたち

| | | | | | | |
|---|-----------|------------|-----------|-----------|---------|----------|
| 1 | 高杉家の先祖 | 3 | 毛利氏に従い萩へ | 先祖は安芸か | ルーツは備後か | 藩を支える高杉家 |
| 2 | 晋作誕生 | 8 | 晋作が生まれた頃 | 高杉家屋敷について | 二人の晋作 | 外祖父大西将曹 |
| 3 | 晋作の師たち | 20 | 名前の変遷 | 幼少期の逸話 | 疱瘡にかかる | 高杉家累代墓 |
| 4 | 吉松淳蔵に学んだか | 羽仁稼亭にも学んだか | 柳生新陰流を修める | 新旧の明倫館で学ぶ | | |
| | | 25 | | | | |

第二章

吉田松陰と松下村塾

1 松陰との出会い 35
松下村塾に集う人たち 晋作の入門 「同志」として交わる 久坂玄瑞と松下村塾

2 松陰と晋作を競わせる

3 尊王攘夷 41
長州藩の尊王攘夷 山県太華と松陰の論争

4 日米修好通商条約をめぐつて 43
明倫館書生たちの論策 益田君に奉るの書 久坂が知らせた京都情報

5 江戸へ 48
大橋訥庵に入門 思誠塾での晋作 松陰への近況報告 孤立する晋作

6 昌平饗に入る 腐儒を学ぶ 書生寮での生活 海軍への興味 松陰の暴走

7 松陰との別れ

8 草莽崛起 晋作が動けない事情 学問観を一新 方外の志は外遊か
松陰、江戸へ 松陰の獄中書簡 松陰の死生観 松陰、処刑される

第三章 修養の日々

1 萩へ帰る 74

松陰の死を知る

マサと結婚 婚礼の日 王陽明を学ぶ

楊椒山全集を読む

松陰の志を継ぐ

明倫館舎長になる

2 航海実習から試験行へ

84

航海実習

「東帆録」を書き始める

途切れた「東帆録」

3 試験行に旅立つ

89

久坂玄瑞らの「横議横行」

試験行へ発つ

江戸出立

加藤有隣に会う

二冊の芳名帳

徘徊浪人に間違われる

日光の滝めぐり

東照宮を批判する

壬生の剣客

高山彦九郎の故郷

上田城下に四泊

象山・松陰のパイプ役

佐久間象山に会う

越前福井

「兵法問答書」と「学校問答書」

三年門を閉じて学ぶ

第四章 國際社會を見る

1 動き始めた長州藩 108

世子小笠役

萩城下での日々

長井雅楽の公武周旋

江戸へ向かう

橋崎弥八郎・久坂玄瑞と共に

久坂と周布の帰国

2 上海渡航の命下る 116

海外行きの話

上海行きが決まる

長崎での日々

千歳丸と幕吏たち

マサへの手紙

上海行きの面々

いよいよ出帆

上海到着

アヘン戦争と太平天国軍

ホテルに移る

ガーデンブリッジを見る

中牟田倉之助と英語

荒れる孔子廟

キリスト教を危険視

五代才助と蒸気船

陳汝欽らとの交流

練兵とアームストロング砲を見る

帰国の理由

蒸気船を独断で注文

第5章

過激化する長州藩の中で……

京都入り 新藩はが決まる

久坂玄瑞の建言

独歩登天の志

ついに脱藩

再び笠間へ

桂小五郎が頼り

台頭してきた「志士」

世子側近の人事

井上聞多と土蔵相模 計画実行まで

神奈川宿で計画中止

世子の教諭

勅使、江戸城へ入る

御楯組血盟書

英國公使館建設

焼打ちのメンバー

焼打ち事件現場

幕府を助けた晋作たち

松陰改葬

玉木彦介が記録する松陰改葬

松陰の神格化

宇野東桜暗殺

芸妓小三のこと

第Ⅱ部 長州藩に引きずられる

第6章 奇兵隊結成

1 東を目指す 177

京都は長州藩が席巻 江戸で「一事業」を企てる 晋作も京へ

武勇伝の数々 京都入りした晋作 剃髪して「東行」と号す

「東」に「行」く意味 将軍要撃計画と周布政之助

2 長州藩の攘夷実行 188

堀真五郎と帰国する 帰つて来た晋作 長刀を買う

3 「西」での攘夷に巻き込まれる 193

久坂玄瑞らの帰国 外国艦砲撃始まる 晋作、山口へ呼ばれる

奇兵隊創設を提案 奇兵隊結成綱領

隊士が見た軍装

4 下関防御の掌握 203

奇兵隊は武士の軍隊 白石正一郎伝説 国司信濃の相談人となる

晋作がすべて掌握 菊ヶ浜土墨 奇兵隊の暴走 奇兵隊対先鋒隊

宮城彦輔の切腹

第7章 内憂外患

1 京都から追われる

八月十八日の政変

214

進発論に傾く藩

政權交代起ころる

219

晋作の逆襲

奇兵隊の上京計画

3 獄の人となる

晋作の岩国行き

進発論と晋作 「奉勅始末」

晋作と来島又兵衛

晋作に対する非難

島津久光暗殺計画

4 西洋列強と戦う

野山獄中の生活

獄を出る

松陰遺稿を編む

「投獄文記」その後

井上聞多の来訪

國体・大義のための攘夷

禁門の変

5 恭順謝罪

四カ国連合艦隊襲来

晋作、座敷牢を出る

休戦談判始まる

三度目の談判

6 償金と彦島租借

第8章 長州藩内戦の中

1 恭順謝罪

249

政權交代

吉川監物の登場

萩に引きこもった晋作

御前会議と骨肉の争い

晋作の従兄

晋作の主張

255

「俗論派」の主張

奇兵隊の処置

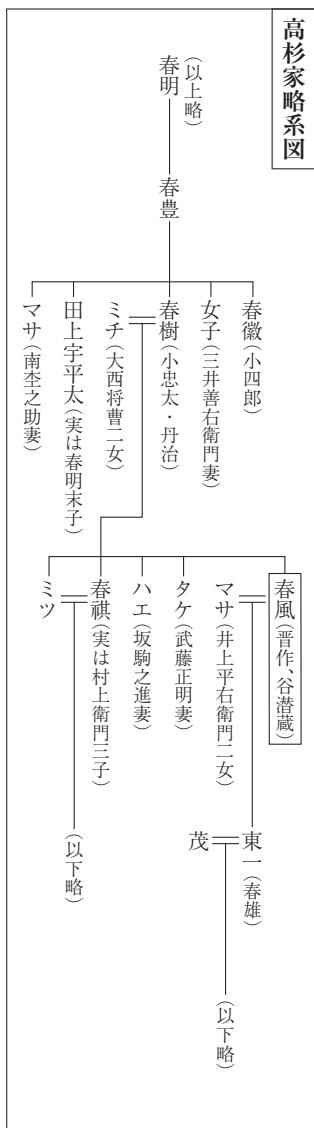
藩主父子の帰萩

249

214

| 第9章 戰爭への道 | | |
|-----------|--|-----|
| 1 | 秩序の建て直し | 302 |
| 2 | 干城隊と諸隊 長い手紙 「回復私議」 下関開港計画 従者の少年 | 311 |
| 3 | 四国亡命 根深い攘夷論 日柳燕石という博徒 丸亀の村岡宗四郎 晋作の同行者 | 302 |
| 4 | 骨肉の争いの果てに 征長軍の撤兵 赤穂武人の脱走 諸隊の萩包围 | 290 |
| 5 | 政権奪取 晋作の帰国 変わる「決起」の地 | 277 |
| 6 | 大庭伝七宛の遺書 ある晋作書簡の疑義 絵堂奇襲 世子の出馬 | 290 |
| 3 | 九州亡命 萩を脱し、山口へ 鍋島直正に期待 平尾山荘伝説 福岡に戻った晋作 福岡から発した書簡 | 260 |
| 4 | 山荘での晋作 『高杉晋作伝入筑始末』 望東の偶像化 | 269 |
| 5 | 譜代の臣 三条実美に挨拶 新地会所を襲撃 | 269 |
| 6 | 井上聞多を見舞う 鍋島直正に期待 晋作が田代を訪ねた日 山上聞多を見舞う 徳地の奇兵隊陣営を訪ねる 博多に上陸 | 269 |

| | | |
|----|---------------|-----|
| 3 | 薩長接近 | 318 |
| 4 | 谷潛藏の誕生 | 328 |
| 5 | 薩長同盟 | 337 |
| 6 | 木戸孝允の上京 | 342 |
| 7 | 龍馬とピストル | |
| 8 | 薩長間の取り決め | |
| 9 | 佐世八十郎との交誼 | |
| 10 | 藩政府に復帰 | |
| 11 | 谷潛藏の正体 | |
| 12 | 元就になれば勝てる | |
| 13 | 再び「正義派」政権 | |
| 14 | 南貞助らの渡英 | |
| 15 | 龍馬来閥 | |
| 16 | 招魂場令と招魂祭 | |
| 17 | 薩摩名義で武器購入 | |
| 18 | 白石正一郎救済と下関換地論 | |
| 19 | 一刀三藩の縁 | |
| 20 | 弟子入り志願の浪士 | |
| 21 | ユニオン号問題 | |
| 22 | 第10章 享年二十九 | |
| 23 | 再び海外渡航計画 | |
| 24 | 始は処女、後脱兎の如く | |
| 25 | 弱音を吐く晋作 | |
| 26 | 両花競う | |
| 27 | 伊藤俊輔と長崎へ | |
| 28 | 長崎からの手紙と写真 | |
| 29 | オテント丸と写真 | |
| 30 | オテント丸が丙寅丸に | |
| 31 | 開戦前のあれこれ | |
| 32 | 蒸気船オテント丸 | |
| 33 | オテント丸に乗り帰関 | |
| 34 | オテント丸が丙寅丸に | |
| 35 | 開戦前のあれこれ | |
| 36 | ついに開戦 | |
| 37 | 中岡慎太郎に語つた決意 | |
| 38 | 海軍総督となる | |
| 39 | 大島奇襲 | |
| 40 | 小倉口の死闘 | |
| 41 | 乙丑丸と龍馬 | |
| 42 | 報国隊も指揮下に | |
| 43 | 小倉口で開戦 | |
| 44 | 長州先鋒士官の書 | |
| 45 | 大里を奪う | |
| 46 | 赤坂の激戦 | |
| 47 | 小倉城炎上 | |



421 407
425

5 病床での日々 372

体調の悪化 野村望東救出 小倉戦争の終結 五代才助と山中成太郎

桜山の東行庵 同志たちの来簡 慶応二年の暮 晋作孝養の家

6 終焉、その後 387

病状の悪化 林家に移る 晋作の書 面白きこともなき世に その最期

家督相続と葬儀 戊辰戦争から脱隊騒動へ 残された家族たち その後のおうの

消えない「高杉晋作」